

エベネゼル緊急基金
出エジプト作戦



EBENEZER
OPERATION EXODUS

神のみこころ を宣言する

「主はそれをヤコブへの定めとして立てられた。イスラエルへの永遠の契約として。」

「そのとき主は言われた。「わたしはあなたにカナンの地を与える。あなたがたへのゆずりの地として。」

詩編105篇10-11節



国際

イスラエル支援の宣言

「シオンのために、わたしは黙っていない。エルサレムのために沈黙はしない。その義が明るく光を放ち、その救いが、たいまつのように燃えるまでは。」イザヤ書6章1節

エベネゼル出エジプト作戦の国際理事会は、世界50か国以上のエベネゼルの奉仕者とボランティアとともに、イスラエル国家への搖るがない一致した支援を宣言し、ハマスによる継続的なテロ行為や国々での反ユダヤ的な暴威に対して断固とした非難を宣言します。

私たちは、ユダヤ人たちが、イスラエルの地や、散らされた地でのショック、痛み、喪失、苦しみ、またハマスによって音楽フェスティバルやイスラエル南部で行われている恐怖や残酷な行為による苦しみと痛みに、共感いたします。

私たちは国際メディアや、地上のすべての国々、またそれらの政府、そして、著名人たちにも、ハマスをテロ集団として拒絶することを要請いたします。

私たちは、ハマスのテロ行為は一切正当化されないこと、また普遍的に有罪とされることを明確にいたします。

また、私たちは、ハマスによって誘拐されたすべての残留捕虜たちを即刻解放することを要求いたします。

私たちはイスラエルが正しいこと、また人道的、国際的な法に従ってこのような残虐行為に対して正当防衛することを支援します。どの国にいるユダヤ人も、イスラエル国家が自己防衛のために行ったことについての結果を恐れる必要はありません。国々の政府は、イスラエルの権利を守るためにすべての権力を行使すべきです。

私たちは、2023年10月24日の国連事務総長による国連安全保障理事会に対するスピーチの中で、彼の発言がハマスのイスラエル攻撃を擁護するようなものであったこと

を非難いたします。また、国連において国々の大部分がイスラエル国家を扱う方法において、世界の他の国と全く違う二重基準を用いていることを非難いたします。

私たちは宣言する：

1. 神は、エレミヤ書31章3-9節にあるように、イスラエルとユダヤ人を、ご自身の変わらぬ眞実な愛によって愛されています。
2. 創世記12章3節にあるように、神様のアブラハムとその子孫との契約は、イスラエルを祝福するすべての民族と国々が神様によって祝福され、イスラエルを呪う民族と国々は、神様によって呪われるのです。神様は、エルサレムに立ち向かうどのような国に対しても厳しい警告を与えておられます。ゼカリヤ書12章1-9節
3. 神様は、イスラエルと永遠の契約を結ばれました。イスラエルの土地をユダヤ人の遺産と永遠の故郷として与えられました。神様は忠実な方で、ご自身の約束を永遠に守られます。(創世記17章7-9節、詩編105篇8-11節)
4. 神様はすべての国々と政府に、ゼカリヤ書2章8節にあるように、イスラエルの存在権を認めるよう語られています。
5. 私たちはイスラエル国家と、またイスラエルが平和のうちに存在する権利、また繁栄する権利、また敵の脅かしから自分たちを守る権利を支援いたします。
6. それゆえ、私たちはイスラエルとともに立ち、イスラエルがユダヤ人の将来を定める権利があり、また自己防衛し、安全な国境線内で生活する権利があることを支援いたします。

私たちはイスラエルとともに立ちます！

国際エベネゼル緊急基金理事会一同
フィリップ・ホームバーグ、ニコラス・コーツ、
エイブ・ウーメン、ゲーリー・H・カー、
ジアン・ルカ・モロッティ、ヘリベルト・ゴンザレス



最新ニュースをご覧になりたい方は、こちらのエベネゼル出エジプト作戦チャンネルをご覧ください。または、こちらのQRコードをスキャンください。



写真

(左から右)：

ヘリベルト(メキシコ)
ニック(イギリス)
ジアン・ルカ(イタリア)
ゲーリー(アメリカ)
フィリップ(スウェーデン)
エイブ(インド)



一致にある力

皆さんは、昨年10月7日のガザからのテロ攻撃、ハマスとの継続する戦争、ヒズボラとの衝突などによって、ユダヤ人がイスラエルへ帰還することが妨げられたと思ったことでしょう。確かに多くの人にとって帰還のプロセスは遅くなりましたが、それでもさらに多くの人々は帰還し続けています。

世界中で反ユダヤ攻撃が急激に増加していることにより、多くのユダヤ人は、自分の国にいるよりもイスラエルにいる方が安全だということを理解しています。

ハイファハウスでは、新しい移住者のためのフルタイムのチームとボランティアたちは、口銃やミサイルが飛びかい、サイレンが鳴り、テロ攻撃の脅威がある間にも、働きを続けています。エベネゼルチームは、この建物をより安全にするために働いています。コンクリートの壁を建てたり、新しい安全扉を設置しています。それによってシェルターのサイズを2倍にする計画です。

また、ハイファハウスのまわりにコミュニティが成長しています。以前ハイファハウスに滞在していた人たちの中には、ここが一番安全なので、またここに来て住んでもいいですか、という人たちもいます。また、ハウスのまわりに住んでいる人の中には、彼らの家にはシェルターがないので、サイレンが鳴ったらハイファハウスのシェルターに来てもいいですか、という人たちもいます。

エルサレムでは、エベネゼルチームは、ガザやレバノン付近のイスラエル北部から避難して来た人たちに支援活動をしています。この記事が書かれた時には、20万人以上の避難民がいました。彼らは死海地方に移動して、エルサレムや付近の地域にある13のホテルに避難していました。彼らの多くは何も持たずに逃げて来た人たちです。

私たちは、エルサレムの市長の事務局と協力して、基本的な物資を供給する支援活動をしています。食料品、トイレットペーパー、子供のおもちゃなどです。また、特に困窮している人々には、食料カードも配布しています。

この危機的な状況の中で、エルサレムでの働きを支援してくださっている皆さん、本当にありがとうございます。皆さまのお祈りと経済的支援のおかげで、私たちはこの困難の中支えられています。

祈りの課題:

- ハイファハウスとエルサレム支部のチームとボランティア、そして彼らの家族の安全が守られるように。

- 何千人の避難民に慰めと備えが与えられますように。

- イスラエルの一致のために、またイスラエル政府に知恵が与えられますように。

イスラエル



イスラエル
ジェレミー・スミス
イスラエルコーディネーター

写真

上:アビシャグ、13歳。彼女の父親は軍人です。彼女はイスラエル北部から避難し、エルサレムのホテルに滞在しています。彼女の両親は彼女のために誕生日プレゼントを買ってあげることができませんでした。そこで、エベネゼルと市長の事務局の人が立ち寄って彼女にプレゼントを渡しました。エベネゼルのシオミットと市長の事務局のイエナが、お菓子とパーティの食べ物とプレゼントを持って来てくれたのです。



左:必要に応じて、食料カードを受け取っています。

右:マサプログラムでは、ロシアやフランスの若者たちが、イスラエルを初めて体験することができます。世界中からのエベネゼルの支援者たちの献金によって、彼らのために毛布と枕を提供しました。



あなたがたは私の証人

国際



フィリップ・ホームバーグ
国際理事会
議長

エベネゼル出エジプト作戦は、アリヤーの働きです。私たちは、働きの中で、アリヤーの働きをすることの意味を理解するようになりました。

第一に、私たちは、ユダヤ人の人々にアリヤーすることを励まし支援します。アリヤーするということは、イスラエルへ帰還し、イスラエル国民となり、その地に植えられ根を張り、イスラエルに住み、家族を建て上げ、そこで死ぬことです。

この働きが 1991 年に創設されてから長年に渡って、私たちは旧ソ連からのユダヤ人の帰還に集中して支援をしました。スティーブ・ライトルが、エベネゼルの働きが始まる前に、グスタフとエルサ・シェラーに分かち合った聖書の言葉は、北の地を明確に記しています。

「それゆえ、見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、もはや人々は『イスラエルの子らをエジプトの地から連れ上った【主】は生きておられる』と言うことはなく、ただ『イスラエルの子らを、北の地から、彼らが散らされたすべての地方から上らせた【主】は生きておられる』と言うようになる。わたしは彼らの先祖に与えた彼らの土地に彼らを帰らせる。」(エレミヤ書 16 章 14, 15 節)

私たちがアリヤー支援をするオリムのほとんどは、北の地から来ています。しかし、今やすべての地からのユダヤ人の帰還の支援ができることは、なんという喜びでしょうか!

オーストラリア、インド、エチオピア、ヨーロッパ、アメリカなどからも帰還しているのです。

信者として、私たちは、ユダヤ人が帰還することを妨げる様々な力があるということを理解しています。ユダヤ人が迫害され、土地を追われ、殺されたという歴史的な出来事があります。また、感情や社会的なつながりが邪魔している場合もあるでしょう。私たちが言えることは、アリヤーは試されているということです。靈的な戦いが続いているのです。

第二には、私たちは祈りととりなしを通して、靈的な妨げを取り扱っていく必要があることを理解する必要があります。道が開かれるためには、石を取り除く必要があるのです。

「通れ、通れ、城門を。この民の道を整えよ。盛り上げ、土を盛り上げて、大路を造れ。石を除いて、もろもろの民の上に旗を揚げよ。」(イザヤ書 6 章 10 節)

祈りととりなしの中で、私たちは神のみことばを宣言し、ユダヤ人に対してなされた罪を告白し、ユダヤ人のための神の目的を宣言し、彼らのために主の前に来ます。エベネゼルはとりなしのアリヤーの働きなのです。

第三には、私たちは、今後何百万人のユダヤ人がイスラエルへ帰還するという大いなるアリヤーにおいて、神様は、エベネゼルやいくつかの他のアリヤーの団体以上のものが必要になつ





です

てくるでしょう。神様は教会を必要とするでしょう。神様は教会がこの力強い働きを見るることを願っておられるのです。神様は、ユダヤ人のアリヤーとイスラエルの回復に関わっておられます。神様はエベネゼルに、アリヤーのビジョンと啓示を教会に分かち合うように召しておられます。神様はエベネゼルに、この方こそ主であり、他に神はいないという証人になるよう召しておられます。エベネゼルは証するアリヤーの働きなのです。

「あなたがたはわたしの証人。——【主】のことば——わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより前に造られた神はなく、わたしそれ後にも、それはいない。」(イザヤ書43章10節)

私たちは祈って、教会にイザヤ書に示されたメシヤの二本立てのミッションを認めてそこで仕えるように励ましていくべきです。初めに、イスラエルをもう一度集め回復するお方であること、そして第二に、異邦人に対しての光であるお方であること。

「主は言われる。「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている者たちを帰らせるという、小さなこととのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

(イザヤ書49章6節)

神の最終的な目標は、神のイスラエルと教会に対するあわれみを通して、神の御名の栄光を現わすことです。

神の永遠のみことばは、神は私たちに個人的にまた全体的に語ってくださる預言のことばであり、特別なみことばを強調されるのです。聖霊は、みことばを開き、私たちの心を燃やしてくださいます。永遠のみことばは、特別な時に、特別な場所で、特別な目的のために私たちに解釈が与えられるのです。

イスラエル国家が再び生まれる前の何年もの間、そして生まれてからも、私たちは神様が他の人々を用いてイスラエル国家を確立させてくださり、神の民が帰還するのを助けてくださっ

ているのを見ています。たとえば、1947年には、国連がイスラエルについての決議をする際に、レース・ハウエルズと彼のとりなし手の仲間達は、ウェールズの聖書大学において、イスラエル国家が回復されるように絶えず祈りをささげていたのです。そして、この決議がなされた時に聖書大学において大きな喜びがありました。

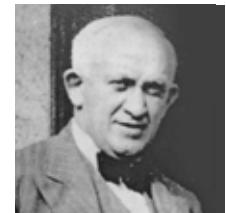


写真 右上:とりなし手、レース・ハウエルズ

右下:ニューヨークに停泊した船、アメリカにはイスラエル以外で最大人数のユダヤ人が住んでいます。

エベネゼル出エジプト作戦は証する、とりなしのアリヤーの働きであり、預言的な召しを持っているものです。1991年1月に開催されたエルサレムでの国際祈りの大会において、湾岸戦争のただ中で、主はエベネゼルの創設者であるグスタフ・シェラーに次のように語りました。「私の民を帰らせよ。」このようにアリヤーの働きはヨーロッパからイスラエルへのチャーター便とともに始まったのです。その後、オデッサからハイファへの船便が10年以上も続きました。そして、2004年に船便が中止された時に、私たちは主が、将来的には再び船によって帰還する道を用いてくださるということを理解したのです。

その間、神様の恵みによって、私たちは多くの国々からの飛行機によるユダヤ人の帰還を支援してまいりました。

私たちとともに立ち協力してくださり感謝いたします。神様が私たちに、神様に仕え続け、主の御名に栄光をもたらすための力を与えてくださいますように。



用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人



フランス



フランス
エベネゼルフランス議長

昨年12月、私は11人のユダヤ人がフランスからイスラエルへアリヤーする旅に同行する機会が与えられました。

機内で私の隣にすわったのは、妻と4人の子供たちと一緒にお葬式と結婚式に出席するために旅をしている方でした。彼の妻の弟が長い間イスラエルに住んでいて、彼らにもアリヤーするよう励ましていたのですが、彼はハマスとの戦争が勃発した時に戦死したのです。その時以来、彼らはずっと考えてきたのですが、遂に今年の春にアリヤーすることを決心しました。

私たちが着陸すると、6年前にドイツからアリヤーして現在ユダヤ機関で働いているタヒラという方に迎えられました。彼女は移住者の吸収省の事務所を案内してくれました。そこにおいて、新しいオリム達は一時的な身分証明書を受け取りました。彼らはこのような明確な形でイスラエルの国民としての新しい身分証明を受けて感動していました。

私は、彼らがイスラエルに到着したのを見ることができどんなにうれしいかを伝えました。また、フランスにおいてのエベネゼルの働きについて、また彼らの親戚がアリヤーするのも支援できることについても話しました。彼らはみな感動し、連絡先などを受け取っていました。

また、グローバルアリヤセンターで、モロッコから23年前にアリヤーしたマルガリータという方に会いました。センターの館長であるアリエルはこう言いました。「ここがアリヤーの中心です。」そこにおいて、世界中からのすべてのアリヤーのファイルが、オペレーターが多言語の電話に対応して処理されます。ウクライナでの戦争は非常に管理の面でチャレンジとなっています。しかし、彼らは現在起こっていることは、疑いなく未だかつてないアリヤーの増加を引き起こすということを認識しています。

アリエルが語っていたのは、反ユダヤ主義が強まっているため、フランスについてはかなり懸念しているということです。彼らは、世界中のクリスチャン、またエベネゼルのアリヤーへの支援に感謝していました。

金曜日には、私はハイファハウスを訪れました。そしてシャバットの夕食を、エベネゼルチームとオリムとともに楽しみました。ハヌカの時だったので、彼らは三番目のろうそくと一緒にともしました。彼らは、マカベスの時代に油の奇跡の中でご自身を現わしたお方が、今日も、暗闇のただ中で神の民に光を与えておられるということを知っています。

写真
上:オリムのためのハイファハウスにて、ハヌカとシャバットの祝いをする

左:マルガリータとフランソワーズ

右:ハイファハウスのハヌカのろうそく





大路を回復する

約500年前に、セファルディのユダヤ人たちがイベリア半島の国々を通って、宗教裁判の迫害から逃げて、ユダヤ人の信仰を守るために隠れ場を求めて西へと移動しました。

ホセアは西からのアリヤーについてこのように預言しています。「彼らは【主】の後について行く。主は獅子のようにはえる。まことに主がはえると、子らは西から震えながらやって来る。」(ホセア書11章10節)このみことばは、フランスのマルセユにいるチームが、「いのちの大路」という祈りをした時に、確認が与えられました。

エベネゼルの祈りのパートナーとリーダーたちはポルトガルのリスボンで10月の初めに集まり、ローマからリスボンへの大路について祈りました。私たちは、大路と標識(エレミヤ書31章21節)に目を向けました。

私たちは12日間車で運転してポルトガル、スペイン、フランス、イタリアへ行きました。私たちは現地のエベネゼル支援者に、港や町のゲートや首都で会い、イザヤ書62章10節に命じられている通りに、祈り、告白の宣言と悔い改めをしました。アリヤーの大路は1300年代から1800年代までのセファルディの迫害の間に、宗教裁判によってなされた罪の呪いからきよめられました。主は私たちの前に進んでください、私たちは力強い形で、主との一致と交わりを体験しました。私たちは自分たちの任務はへりくだり柔和であることだと理解しました。私たちが従う中、主は忠実に働いてください、西からのアリヤーの妨げの石を取り除いて

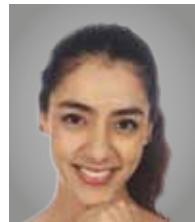
必要な突破を与えてくださいました。

聖靈さまは言葉と啓示を与えてくださり、今こそこれらの国が立ち上がり、オバデア書に書かれているように、主の民を回復させる主の御計画にある召しを成就する時が来たことを確認してくださいました。「セファラデにいるエルサレムからの捕囚の民はネゲブの町々を占領する。」(オバデア書1章20節)

主は働いておられます。祈りと宣言の実が主の偉大な御名を証するでしょう。そして私たちは主がアリヤーの大路を回復してくださることを、主にあって信頼しているのです。

*セファラデのユダヤ人:イベリア半島(スペインとポルトガル)に散らされたユダヤ人

祈り



プリシラ ポラス
いのちの大路チーム

写真

上:イタリア、ローマのいのちの大路チーム

右:コロンバスが新世界を航海した時に使用した船のレプリカ



Light in the Darkness
Isaiah 60:1-2

BOOKING INFORMATION
www.ebenezer-oe.org/events



EBENEZER
OPERATION EXODUS

光は闇に打ち勝つ

イスラエル



ジュディス・ビナペル
エベネゼルイスラエル

写真
上:マルクス、ハイファハウス館長
(中央)——オリム移住者たちとハ
ヌカを祝う

「光は暗闇に打ち勝つ」 昨年、オリムのためのハイファハウスでハヌカのお祝いをした時、このことは、私たちにとって、とても特別な意味を持っていました。

そこにはとても長いテーブルがあり、たくさんのハヌカの灯、食べ物、そしてたくさんの素晴らしいオリム達(新しい人もそんなに新しくない人もいました)中には今私たちとともに滞在している人もいました。また、以前ここに滞在していて、今回のお祝いのために戻って来られた人もいました。

ある3人の子供の父である方が、光をともす中、



何千年もの迫害の後、また現在戦争が起こっている中、ユダヤ人たちがイスラエルへ戻って来ているということが、どんなに特別で本当の奇跡であるかについて、分かち合いました。オリム達は、自分の父親がするのを見ていたので、同じようにろうそくに火を灯しました。そして彼らが自分の子供たちに世代に渡ってそれを教えていくのです。

彼は続けてこのように言いました。「私たちの先祖がこの伝統を長年続けてきました。そして今私たちの番が来て、ユダヤの祭りを祝い、私たちと私たちの地に対する神様の忠実さと約束を覚えてこの祝いをする責任があるのです。多くの権力者が私たちを地図から消し去ろうとしてきました。また、ハマスが今同じことをしようとしています。しかし、私たちは戻ってきました。そしてここにとどまり続けるのです。私たちは、イスラエルの地でハヌカの祭りを祝う特権が与えられた世代の者たちなのです。私たちは皆、最近アリヤーしてきた者たちです。そして私たちは、この聖なる書が書き記している奇跡の一部なのです。エベネゼルの方々もまた、私たちを助けともに祝いをすることを通して、この奇跡の一部なのです。アム・イスラエル・ハイ(イスラエルの民は生きている)！」

神様の約束が文字通り私たちの目の前で成就するのを見て、祝うことができるとは何という特権でしょう!このことに関わることができることは私たちにとって大きな喜びです。もし、ハイファの奇跡の一部になりたいと願うなら、あなたもぜひ来て支援にご参加ください!



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-exodus.org
www.operation-exodus.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒 062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
paginamaestro@hotmail.com
<http://eefj.org>
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。